

文学部 日本学科

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

日本学科では、卒業時点で以下の3点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士(文学)」の学位を授与する。

1) 知識・技能

日本について、日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化(和食)という多彩な角度から知識・技能を修得し、応用できる。

2) 思考力・判断力・表現力等

確かな思考力と判断力を養い、言語的表現力および多様なメディアによる視覚的表現を身に付け、それを用いて他者とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。

3) 主体性、多様性、協働性

日本の言語や文化について関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、地域に根差した社会貢献に向けて、他者と協働して改善・解決を図ることができる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

日本学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した力を修得するために、「教養教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「教養教育科目」を設置する。

2) 日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化(和食)の各領域についての専門的な知識・技能を修得するために、学びの根幹となる講義および演習・実習科目を「学科基幹科目」に設置し、多岐にわたってより専門化した講義および演習科目を「学科専門」に設置する。

3) 言語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断しそれを表現する能力を養うための科目を「学科専門」に設置する。

4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、社会体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、各領域について課題発見・検討・改善に関する講義や実践的な演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

(2) 教育方法

- 1) 専門的な知識・技能を修得する授業では、プレゼンテーション、グループ活動などのアクティブ・ラーニングを多く取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 言語的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために、読む・聞く・書くという実践的学びを行うとともに、視覚的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために動画編集などの演習を行います。
- 3) 体験型活動を多く取り入れ、他者と協働し主体的に課題解決に取り組む経験を積む機会を十分に設けます。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。
- 2) 学生自らの評価として、ルーブリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。
- 3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

日本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 日本の言語・文化についての専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。
[求める要素：知識・技能]
- 2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できること。
[求める要素：思考力・判断力・表現力等]
- 3) 日本の言語・文化に対する様々な事柄に関心をもち、課題を発見し解決する意欲を有すること。
[求める要素：関心・意欲・態度]
- 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、他者と協働できること。
[求める要素：主体性・多様性・協働性]